

令和6年度第3回半田市民健康づくり推進協議会 議事録要旨

開催日時	令和6年9月19日(木) 14時00分～15時30分
開催場所	半田市役所 全員協議会室
会議次第	1. はじめに 2. 議事 (1) 第3次健康はんだ21計画について(案) 3. その他
出席委員 (13名)	【会長】新美 親紀(半田市医師会) 天埜 克彦(半田歯科医師会) 加藤 玲美(知多地区薬剤師会) 中村 誉(愛知県健康づくり振興事業団) 山下 陽道(全国健康保険協会 愛知支部) 森 邦弘(半田市老人クラブ連合会) 竹内 華奈子(半田商工会議所 女性会) 岩田 若菜(半田市食生活改善推進員協議会) 石川 誠子(半田市PTA連絡協議会) 竹内 かつみ(半田市健康づくり連絡協議会) 山崎 千佳(半田保健所健康支援課長) 加藤 昌子(さえずりの杜)(自殺対策部会代表委員) 竹部 益世(半田市福祉部長) ※敬称略、順不同
事務局	竹内 健(福祉部健康課長) 木村 智恵子(福祉部健康課副主幹) 内藤 加奈子(福祉部健康課副主幹) 榊原 晶子(福祉部健康課保健師) 吉田 麻紀(福祉部健康課主事)

次第	議事概要
1. はじめに	(事務局) 本日は委員14名中13名、過半数以上の出席がありますので、半田市民健康づくり推進協議会設置要綱第6条第2項により、会として成立することをご報告いたします。 これより設置要綱第6条第3項の規定に基づき、会長が議長となりますので、議事進行を会長にお願いいたします。 (会長) みなさまよろしくお願ひいたします。今回も活発なご討議をお願ひいたします。それでは議事に移ります。

<p>2. 議事 (1) 第3次健康 はんだ21計画 について(案)</p>	<p>(会長) 2. 議事(1)「第3次健康はんだ21計画について(案)」事務局より説明してください。章ごとに、「第1章 計画策定にあたって」について説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 【資料 P.1～4】に基づき説明</p> <p>(会長) 続いて、「第2章 本市の健康に関する現状と課題」について説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 【資料 P.5～29】に基づき説明</p> <p>(市民委員) 本市主要死因別死亡割合で、誤嚥性肺炎と病気の診断がついたときは、死因は老衰かその他に入るのででしょうか。行動目標に「口腔機能向上」や「オーラルケア」について記載があり、高齢化率が高くなっていく今後はさらに大事になると思ったのですが、データとして病名が上がってきていないので、どこに含まれているかと思い、照会しました。</p> <p>(会長) 医師が死亡診断書を書きますが、誤嚥性肺炎で亡くなる場合、肺炎がもう少しで治りそうで、病気と闘って体力的に栄養状態が悪くなって亡くなった場合は老衰とする場合もありますが、基本的には誤嚥性肺炎という病名で死亡診断書を書くのが一般的です。</p> <p>(市民委員) 主要死因別標準化死亡比の女性の自殺が多いということですが、何かその要因や想定される原因はありますか。</p> <p>(事務局) 半田市の女性の自殺に関して、令和2年に14名の方が亡くなっていて、女性の自死が多い状況が令和4年まで続きました。コロナ禍に女性の自死が増えた理由については、経済的な問題や家族の問題等いろいろな要因が言われておりますが、半田市としての特徴があるかは、わかっていません。</p>
---	---

(市民委員)

年齢階級別自殺死亡率は男女合算ですが、実際の対策を考えていく上で、何歳ぐらいの方に多いかということが重要だと思いますので、次回以降に教えてください。

(会長)

腎不全について「腎不全の死亡率は、過去10年間、男女ともに県より高い傾向」ということですが、腎不全で亡くなった人の母集団は何でしょうか。透析になってから亡くなるのか、慢性腎不全のうちに亡くなるのか、その母集団を改善すれば、腎不全は何を目的にして施策にすればいいかがわかります。

腎不全で危ないのは糖尿病性の腎不全と腎硬化症で、腎硬化症は高血圧でなるものです。CKDの診療ガイドラインには、透析になる人は糖尿病か高血圧症の人であると明記されています。本当に危ないのはどういう方か、もしくはその方々がどうしたら助かるかが周知されてきたら、おそらく死亡率は下がります。それらの意味からCKDはなぜ死亡率が高いのかという母集団を調べてください。

(事務局)

一点目の、腎不全の死亡率はどこを母数としているかについては、愛知県の衛生年報が出典で、死亡診断書をもとに出ているものです。母数は全死亡数で、その中で死亡診断書が書かれるときに疾患名として腎不全という明記があった方が該当するという統計になっております。

二点目の、CKDの今後の進め方について、昨年からはじめた「はんだ『守ろう！腎臓』プロジェクト」で、まずCKDを周知するという、普及啓発を行っています。また具体的にターゲットを絞るという点は、一緒に取り組んでいる医師会や薬剤師の先生方からも同様の意見が出ておりますので、チームで今後の進め方を検討したいと思います。

(会長)

続いて、「第3章 計画の基本的な考え方」について説明をお願いします。

(事務局) 【資料 P.30～31】に基づき説明

(会長)

続いて、「第4章 具体的な施策内容」について説明をお願いします。

分野ごとに「第4章 具体的な施策内容・I 健康増進分野」について説明をお願いします。

(事務局) 【資料 P.32～58】に基づき説明

(市民委員)

「身体活動、運動」のところで、中学生の部活動問題が出ています。中学生の部活動が地域移行されるという中で、とても不安定な状態です。中学生の健康問題やスポーツ・運動に関わる将来的な問題です。中学生の運動、身体づくりと、精神的な問題、心の成長にも早急に切り込んでもらいたいと思います。

(事務局)

前回、前々回の協議会でも中学校の部活動の地域移行についての意見をいただいております、そのことについては担当課に伝えた上で、今は関連する複数の課で協議していると聞いております。運動が出来る環境づくりは必要であると考えておりますが、本計画に掲載するかについては、事務局や庁内の部会でも検討した結果、本計画に記載するのは今回見合わせる形で考えております。

(事務局)

今回、市全体の健康計画ということで、スポット的に「中学生」としては明記しないという判断をしましたが、「身体活動、運動」のライフステージ別行動目標の学齢期の目標を「さまざまなスポーツを体験する」や「心と身体の成長にスポーツを実施する」とし、「中学生のときにしっかりやらなければ」ということの置き換えとして明記していることご理解いただきたいと思います。

(市民委員)

市では、「スポーツ推進計画」を策定しているので、ここでしっかりした議論が必要になってくると思います。運動については、例えば中学生年代のスポーツ・運動の実施率が下がったり運動習慣の数値が下がったりするのは非常に問題だと思っておりますので、本計画でも意識づけしながら進めていきたいと思っております。

(会長)

全体では進めているということによろしかったですでしょうか。

(市民委員)

青少年期のスポーツの重要性をしっかりと議論されていると思います。

(市民委員)

この場で聞くとわかるのですが、父兄にはその情報が共有されていないので、非常に不安が広がっています。学校の体育だけでは子どもの成長が追いついていけないので、部活動という場が今まで非常に有効な場でした。その次のステージと目標を早急に用意して、学校や父兄や子どもにわかるようにしてもらいたいです。

(市民委員)

「身体活動、運動」について、スポーツ教室をいろいろ実施するとありますが、ジムで見かける年齢層は子育てが終わった世代の方がほとんどで、あとは20代でやる気のある方たちが多いです。子育て世代はやはり少ないと思います。「子育て世代のエクササイズ体験」や「動ける身体づくり教室等の運動教室の実施」とありますが、具体的にはどんなことを考えていますか。市内の民間のジムとの連携等も考えているのか、教えてください。

(事務局)

「子育て世代のエクササイズ体験」は、昨年度より市内の公民館や子育ての拠点の施設で始め、今年度は場所の広い中学校の体育館等を利用して、年に数回、子育て世代の方を対象にしたエクササイズとして開催しています。講師に民間のスポーツクラブの先生をお招きしています。

(市民委員)

現状のデータを確認すると「日常生活にて歩行または同等の身体活動を1時間以上実施する人の割合」は国保に限ったデータになっていて、限られた方のアンケート結果になっています。就労世代の方の半田市全体のデータはやはり入手不可でしょうか。令和2か3年度に全年代の特定健診のデータを愛知県が出しているはずなのですがどうでしょうか。そこに特定健診の問診で「運動習慣がありますか」「30分以上の運動習慣がありますか」というデータをおそらく県が全域収集して出していると思うので、それを見ると年代別もわかると思いますし、子育て世代が本当に運動していないかという実情が把握出来ると思いました。

(事務局) データについて調べた上で、検討させていただきます。

(会長)

日本というのは長寿の国で、寿命は延びているのですが健康寿命は10年少ないと言われていました。ご高齢の方がどれだけ健康でいられるかということが、日本を支える一つだと思います。

(市民委員)

80歳を過ぎるとほとんどの方は何らかの持病を抱えております。医師と付き合いながら、また自身の日常の活動の中で病気を承知しながらそれに打ち勝っていくということが理想であると思います。月に1回薬をもらうために病院に行く方が多いですが、その際に血圧等の測定をしていただけるので、それが自身の健康チェックの一つとなっています。病気になったとしても出来るだけそれに負けないような気持ちを日常から持ちながら、元気でやっていこうと頑張っております。

(会長) 何か半田市にやってほしいことはありますか。

(市民委員)

健康講座等をやっていたりしています。役員の方からは、たくさんの方に参加してほしいという声がありますが、市民には無関心の方もいますので、今更新しいことをやらなくてもいいという雰囲気です。

(市民委員)

保育園や幼稚園で「野菜の手ばかり目ばかり」という活動を行っており、その際に塩分を控えるよう保護者や幼児に話をしています。関心のある方は意欲的に家族の健康づくりも考えていると思われるのですが、参加されていない方をどうしたらいいかと思っています。病気も20年ぐらい後に出るといった話も聞きますので、なるべく早くから、個人が寿命を出来るだけ健康で過ごすという意識を持ってもらいたいです。

(市民委員)

健康になるには運動と睡眠とバランスのとれた食事と、高齢になってくるとフレイル予防のために社会参加をして話をするといわれていますので、そのようなことを頭に入れつつ、市民が健康づくりに意識を持った生活、食生活をしてもらえるように、お願いします。

(事務局)

先進的にやられている他市町では、例えばレシピの紹介等をホームペ

ージやラインにアップする等の取り組みがあります。他市町を参考に、本市でもどのようにやっていくか検討中です。今はアプリが主流で、現在半田市で取り組んでいる「はんだ健康マイレージ」をアプリでやる等、様々なことを考えているところです。

また介護予防について、フレイル予防には運動と栄養と社会参加という大事な三つの要素があり、社会参加はとても大事であると認識しておりますので、高齢の方に限らず若い方にも、どのようにアプローチしたら参加意識を持ってもらえるか、PR方法も考えていきます。

(会長)

あるテレビ番組で「にんにく水」というのを紹介しておりました。50ccのお湯ににんにくのスライスを5g、塩を1.5gぐらい入れて5分間そのまま置いておくそうです。ご飯を炊く際も「にんにく水」で炊くと、全く味が違うご飯になるそうです。レシピの話も、実際本当に美味しいものをつくって実績を作らなければいけないと思います。そういうものを皆さまでいろいろ考えてもらいたいです。

(市民委員)

ここ半田市は醸造文化でもありますので、発酵食品等に特化したレシピ等もやってもらえたらいいと思います。

(市民委員)

レシピについて、他市町のスーパーで、主婦の方は毎日の献立に困っている点に着目して、レシピ+食材をセットにしたようなコーナーを入口に置いているそうです。普段自ら健康教室等に来ないような主婦を狙った食生活の取り組みをされていて、非常に面白いと思いました。また他県で、通常、健康メニューは開発にお金がかかってメニューの値段が高いこともあるのですが、補助金等の予算をうまく使って500円で買えるものをつくれ、食生活に関心のない方も安ければ自然に買うというナッジ理論が使われた事例もありますので、無関心の方をいかに巻き込むかという点ではやはり値段がキーだと思います。

(会長)

続いて、「第4章 具体的な施策内容・Ⅱ 自死対策分野」について説明をお願いします。

(事務局) 【資料 P.59～63】に基づき説明

(市民委員)

自死について、半田市内の高校でもオーバードーズや自傷行為が実際に起こっているとのこと。高校での話なので、対策は県が行うのかもしれませんが、学校で実際にこういうことが発生した等の場合は、学校から報告は半田市に上がるのでしょうか。

(事務局)

高校から、そのような情報の共有はほぼないというのが現状です。市内の小中学校に関しては担当課で対応しています。学校もスクールカウンセラー等いろいろな専門職種が入って、日々検証しながら対応しています。当課では自死対策として「ゲートキーパー養成講座」を行っております。市内の小中学校の先生を対象に、ゲートキーパーの内容のみでなく、日常生活の中で例えば『もう死にたい』と子どもから言われた際の対応等について、公認心理師の先生から研修を実施しております。

(会長)

患者さんでも小学生・中学生・高校生で心の病気の方がいて、その方たちは、こうでなければいけないが、それに答えたいけれど答えられなくて自分を責めるというパターンが多いです。また薬を飲んでいることが多いです。心の豊かさを取り戻すためにはどうしたらいいかを施策の中で打ち出せば、もう少しみんな楽に生きていけると思います。

(市民委員)

9月10日から16日が自殺予防週間となっています。自死ご遺族の方が実際に感じられたこととして「自殺予防週間」「自殺対策強化月間」という言葉を目にしたときに、それを防げなかった自分に、えぐられるような思いになってしまったそうです。自死ご遺族の方に元々共通して言えることが、ご自身をかなり攻められたり、何かしてあげられなかったかとかご自身の責任をすごく感じられたりするそうです。何気に使っている「自殺」や「予防」という言葉の中に、社会通念として、弱いのは駄目だとか頑張れなかったっていうように裏のメッセージで取られてしまうこともあると身近で聞きましたので、この場で共有いたします。

(市民委員)

学校にスクールソーシャルワーカーがいますが、子どもたちが本当にそこに行きつけるか、子ども本人が「どうせ言ってもしょうがない」という考えを持っている子もいるのではないかと思います。

(事務局) 本日いただいた意見等は担当課に伝えます。

(会長)

続いて、「第4章 具体的な施策内容・Ⅲ 数値目標一覧」について説明をお願いします。

(事務局) 【資料 P.64～68】に基づき説明

(会長)

続いて「第5章 計画の推進」及び「第6章 資料編」について説明をお願いします。

(事務局) 【資料 P.69～75】に基づき説明

(市民委員)

「昔は歯がなくなったらイコール死に直結してしまっただけくらい『食べる』ということ自体が生きるために本当に大切なことである」という話を子どもたちにしています。小学校の歯科検診結果をみると、今むし歯はすごく減っているのですが、むし歯が多い子と全然ない子が極端です。昔は3本か5本ぐらいだったのが、今は0本か15本かぐらいの差です。むし歯のかなり多い子というのは、大体家庭環境のどこかに問題があります。口の中の環境が悪い子どもたちを学校の先生たちがフォローして気をつけて見るということも大事なことはないかと思います。

(市民委員)

全国健康保険協会では企業等の関わりの中で健康経営について取り組んでおります。「第5章 計画の推進」の中で「本市の健康課題や目標、取り組みを地域・関係機関・企業等と共有し、連携して健康づくりを進める」とありますが、具体的に半田市で何か企業に対して取り組み等を連携されているのでしょうか。

(事務局)

健康増進についていろいろな事業を行っておりますが、時代も変わってきていて、市単独でいろいろな事業を組んでも、なかなか市民に届かないと実感しています。そのため、市内の企業や商工会議所等と連携していきたいと思います。まずはニーズを調査して、どう連携していくのかというところを、本計画を通して実施していきたいと思います。

	<p>(会長) こうなるといい、という方向性はありますか。</p> <p>(事務局)</p> <p>現在平日に開催している健康づくりの事業は参加者が少ないので、企業の方と職場での健康づくりを進めていきたいと考えています。一つは、「はんだ健康マイレージ」について、HPに掲載したり公民館に用紙を置いたりしていますが、今後は企業の方が団体として企業単位で参加出来るよう、啓発の方向性を変えていきたいと考えています。またそのツールを来年以降はアプリを導入して、企業に参加してもらえような企画を考えたいと思っています。</p>
3. その他	<p>(会長) 続いて、3. その他について事務局から報告をお願いします。</p> <p>(事務局)</p> <p>今後の流れについて、今回のご意見をもとに計画(案)の修正を行い、修正した計画(案)を市民に公表し、「パブリックコメント」を実施します。市民からのご意見をもとに再度修正を行った後に、1月の協議会に計画(案)をお示しし、ご意見をいただく形になります。</p> <p>(会長)</p> <p>本日は委員のみなさまから活発なご意見をいただき、ありがとうございました。その他、ご連絡等ございますか。なければ、事務局に戻します。</p> <p>(事務局)</p> <p>会長、ありがとうございました。次回の推進協議会は、令和7年1月23日(木)に開催予定です。これにて令和6年度第3回半田市民健康づくり推進協議会を終了させていただきます。</p>
	15時30分終了